

平成 23 年 4 月 28 日現在

機関番号：14601  
 研究種目：若手研究（B）  
 研究期間：2007 ～ 2010  
 課題番号：19730538  
 研究課題名（和文） 生涯キャリア発達を支援する就学前段階からのキャリア教育プログラムの開発  
 研究課題名（英文） Development of the Career Education Program from Preschool Stage that Supports Life Career Development  
 研究代表者  
 河崎 智恵（KAWASAKI TOMOE）  
 奈良教育大学・教育学研究科・准教授  
 研究者番号：50346300

## 研究成果の概要（和文）：

本研究では、ライフキャリアの視点よりキャリア決定プロセスを明らかにするとともに、ライフキャリアに関する能力・態度の質問紙調査を実施し、能力・態度領域の尺度を構成し、尺度を用いて、キャリア経験・活動の有無による諸能力の差異を分析した。次いで米国キャリア教育の教科書等の分析を行い、就学前段階からのライフキャリア教育のカリキュラムモデル・カリキュラムを作成した。これらの知見をもとに、卒業後のキャリア発達を支援する教育プログラムを開発し、教育実践を行った。

研究成果の概要（英文）： In the present study, the career decision process was clarified more than the aspect of the life career, and the investigation of the questionnaire of the ability and the attitude concerning the life career was executed. The difference of various abilities by the presence of the career experience and the activity was analyzed by composing the standard of the ability and the attitude area, and using the standard. Next, the textbook etc. of the United States career education were analyzed, and the curriculum model curriculum of the life career education from a preschool stage was made. The educational program that supported the career development after it graduated based on these findings was developed, and educational practice was done.

## 交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	800,000	0	800,000
2008 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2009 年度	600,000	180,000	780,000
2010 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
総計	3,200,000	720,000	3,920,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：進路指導・キャリア教育・キャリア発達

## 1. 研究開始当初の背景

キャリア教育実践の多くは、就職支援や就業支援など、職業生活における自己実現の側面に偏重しており、スーパー (Super, D.E.) の示すようなライフロール (人生役割) の中で、キャリア発達を支援する視点は希薄と言わざるを得ない。また各実践内容に系統性は認められず、育成すべき能力についても統一の見解は得られていない。

その背景には、我が国におけるキャリア発達能力モデルが、児童期から青年期前期における職業的発達に焦点化しており (我が国におけるキャリア発達能力の構造化モデル、職業教育及び進路指導に関する基礎的研究(最終報告))、それに基づき構想された「進路指導におけるキャリア教育モデル」も、具体的言及は小学校から高等学校の範囲にとどまっている点があげられる。キャリア発達は本来、幼児期からの手伝い経験や、家庭・地域での仕事を通して、また絵本や図鑑、身近の人との関わりから職業や生き方への空想を育むなど、多様な生活場面で、螺旋的かつ複層的になされるものである。就学前段階からの、人間生活全体を視野に入れた具体的モデルの欠如は、キャリア教育への保護者の理解、地域社会・企業の協力体制の未整備等、現行の教育実践上の課題にも影響していると考ええる。本研究では、幼少連携をも視野に入れた、就学前段階からのキャリア教育の可能性を探究し、生涯のライフ・キャリア(人生キャリア)における、意思決定を支援するプログラムの開発をめざす。

## 2. 研究の目的

本研究では、就学前段階からの、キャリア教育モデルとプログラムを開発するこ

とを目的とする。この目的のために、国内外の文献研究による理論検討とともに、有職青年を対象としたインタビューを実施し、幼児期からのキャリア発達モデルおよび、教育モデルを構築する。構築したモデルに基づき、キャリア教育プログラムを開発し、教育実践の上、修正する。

## 3. 研究の方法

### 1) キャリア発達に関する質的および量的調査

有職青年を対象としたインタビュー (追跡調査) を実施する。質問項目はキャリア発達の様態、将来のキャリア開発への態度、必要とするキャリア支援、職業・家庭・地域生活へのコミットメントの程度、キャリア決定のプロセス等である。卒業後のキャリア発達に寄与する教育支援について考察する。

### 2) 国内外のキャリア発達・教育に関する文献調査・実態調査

就学前段階からのキャリア発達の枠組みを構築するために、キャリア発達・生涯発達・キャリア教育に関する文献、および国内外のカリキュラム等を詳細に検討する。また、先駆的なキャリア教育について実態調査を行い、教育開発への示唆を得る。

### 3) 幼児期からのキャリア教育モデルの構築およびプログラムの開発・実践

研究 1)2)の成果をふまえて、幼児期からのキャリア教育モデルを提示する。それをもとに、キャリア教育プログラムを作成のうえ、実践を通してそれを検証し、修正する。

## 4. 研究成果

### (1) キャリア発達に関する質的および量的調査

就業前である大学生を対象とし、ライフストーリーの語りより、職業や将来に対する意識、およびキャリア決定プロセスを質的研究法を用いて調査した。研究の結果、暫定的決定を行った経験の有無により、その後のプロセスは大きく異なることが明らかになった。暫定的決定を行っている者は、職業に対する肯定感や積極性が高かった。さらに、職業に対する働きかけも積極的に行う傾向が認められた。また、暫定的決定を行った経験は、転機や挫折に怯まず進んでゆく強さや、自己を見つめ、より良くしようとする意識を育てていた。一方、暫定的決定を行った経験のない者は、暫定的決定を行った経験のある者に比べて、職業肯定感や積極性に欠けていた。また「働くこと」自体を回避したがる傾向が見られた。

暫定的決定を行った経験を有する者の中でも、特に義務教育卒業以前の比較的早期に暫定的決定を行った経験のある者は、「職業への積極性」「職業への憧れや肯定感」「職業への働きかけ」などが、顕著に高かった。暫定的決定を義務教育卒業以前に行うことは、その後のキャリア決定をより円滑に、また意思を持って決めるための手助けとなっていた。暫定的決定を行った経験はその後の進路選択において大きな意義を持つとともに、特に進路選択前、つまり義務教育卒業以前に暫定的決定を行うことは大きな意味を持つことが示された。

### (2) 就学前段階からのキャリア教育の能力・態度領域の構造化と教育モデルの作成

まず、ライフキャリアの方向性が顕著な米国キャリア教育の教科書を手がかりに、育成すべき能力領域について検討した。具体的に

は、中等教育用のキャリア教育教科書「*Developing Career and Living Skill*」(Burkhardt, M. S. & Terry, B., 2005)の内容を、我が国で提示されている能力領域の枠組みと照らし合わせて分類整理し、既存のモデルにおける能力領域との比較検討を行った上で、ライフキャリア教育で育成すべき能力領域「自己理解」「人間関係」「意思決定」「就労開発」「生活実践」「キャリア統合」を想定した。

次いで、就学前段階からの発達段階を視野に入れた、米国ニュージャージー州のキャリア教育カリキュラムガイド「*New Jersey Core Curriculum Content Standards Horizontal Design for Career Education and Consumer, Family, and Life Skills*」(New Jersey Department of Education, 2006)の内容分析より、具体的な学習内容と順序性を明らかにし、想定した能力領域の学習可能性を検討した。ライフキャリアの能力育成においては、就学前段階から6能力領域に関連した学習内容が配列され、段階があがるにつれて、より複雑な問題に発展するように構成されていた。6能力領域の学習を就学前段階より可能とするためには、学習の順序性に特に配慮する必要があるといえる。

上記の結果をもとに、「基盤レベル」「経験レベル」「統合レベル」の3つのレベルと、「個の発達」と「関係性の発達」の方向性より、能力領域概念を構造化した。

最終的に概念図を用いて、就学前段階からのライフキャリア教育のカリキュラムモデルを作成した。モデルの縦軸には「自己理解能力」「人間関係能力」「意思決定能力」「就労スキル」「生活スキル」「キャリアデザイン」の6能力領域およびその下位能力を示している。横軸には「就学前教育」「小学校」「中学校」「高等学校」「大学・卒業後」の5段階

の発達区分を設定した。提示したモデルは、共生的なアイデンティティ発達に寄与すると同時に、社会参画を可能とし、男女共同参画社会の実現にも貢献し得る。

### (3) キャリア教育プログラムの作成と実践

卒業後のキャリア発達に寄与しうるキャリア教育プログラムを検討することを目的とし、卒業後の有職青年のキャリア意識に関する質問紙調査、を実施した結果、暫定的決定経験が卒業後のキャリア意識にも、強い影響を及ぼすことが示された。また、有職青年のキャリアの諸能力に関する質問紙調査を実施したところ、小学校では「人間関係」「意思決定」「キャリア設計能力」において、暫定的決定経験のある者の方が、ない者よりも有意に得点が高く、中学校段階では、全ての能力領域において、暫定的決定経験のある者の方が、ない者よりも有意に得点が高かった。

得られた知見をもとに、中学校におけるキャリア教育プログラムを作成し、授業実践を行ったところ、プログラム実施後に全ての能力領域で得点の上昇が認められ、多くの生徒が職業や将来について興味や展望を抱くという結果を得られた。これらの結果より、作成したプログラムには一定の教育的効果があると判断できた。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

1. 河崎智恵, ライフキャリア教育における能力領域の構造化とカリキュラムモデルの作成, キャリア教育研究, 第29巻第2号, 57-69(2011)
2. 河崎智恵・川端亜紀子, 卒業後のキャリア発達に寄与するキャリア教育の検討—中学校におけるキャリア教育プログラムの作成

—, 奈良教育大学教職大学院紀要 学校教育実践研究 No1, 39-48, 2009年

3. 川端亜紀子・河崎智恵, 大学生のライフストーリーにみるキャリア決定プロセス, 奈良教育大学紀要 No57, 181-190, 2008年

〔学会発表〕(計1件)

1. 河崎 智恵, 教員養成系大学におけるキャリア教育の展開—奈良教育大学の実践を中心に—日本キャリア教育学会第29回研究大会 2007年10月28日, 多摩美術大学

〔図書〕(計2件)

1. 仙崎 武, キャリア教育リーダーのための図説 キャリア教育、雇用問題研究会 2010(238頁)
2. 仙崎 武, キャリア教育の系譜と展開—教育再生のためのグランド・レビュー—, 2008(241頁)

### 6. 研究組織

#### (1) 研究代表者

河崎 智恵 (KAWASAKI TOMOE)

奈良教育大学・教育学研究科・准教授  
研究者番号: 50346300